

富山大学 都市デザイン学部 同窓会

Vol. 01

同窓会誌
(発行 2024年1月)



同窓会会長に就任して

令和4年度会長挨拶 坂東 晃紀

この度、第二期生の皆さんが卒業を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。都市デザイン学部の同窓会は二年前に設立されました。本同窓会は、会員相互の交流や学部、学術分野・技術、地域の発展を目的とし、在校生への手厚い支援等の事業を行っています。今年度からは、第一期生の卒業生が新たに加入し、本学部の元学生という立場から、より学生にコミットした支援をすべく、事業に係る様々な検討を行いました。

本同窓会は設立してから年月を過ぎていないこともあり、現在、在校生に対する“手厚い”支援や、卒業後の同窓会員間の交流を行うためのプラットフォームの構築を行っている段階です。しかしそれはすなわち、本同窓会が従来とは一線を画す、柔軟な発想をもとにした「新しい同窓会」として活動できる機会があるということを示します。

本学部では、専門分野の異なる三学科が集合し、デザイン思考等のアクティブラーニングの授業を通じた、異なる専門分野や知見を持つ学生間の自発的相互コミュニケーション、学部共通科目で習得できる他学科の専門分野の基礎知識、および地域との連携を行う各種授業等を通じて、持続可能な社会の実現に向けて求められる、「多角的な視点」の習得や、様々な分野間の連携において求められるスキルの習得ができるようになります。

このような先進的な事を行っている本学部の同窓会だからこそ行うことのできる事業は数多にあります。ご卒業される皆様には、ぜひ同窓会に加入し、我々とともに本同窓会をより有意義なものにすべく、学部時代で得た知見を存分に生かしていただきたく思います。末筆ながら、本同窓会の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致します。



第一号発刊にあたって

令和5年度会長挨拶 原田 隼輔

本年度より会長に就任させていただきました、都市・交通デザイン学科2期卒業生の原田隼輔です。都市デザイン学部は地球システム、都市・交通、材料の3学科が融合し、持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目指して、2018年に新設されました。デザイン思考やPBL型学習、データサイエンスなどの新しい教育というものが印象的だと思います。これらの知識や技術は、今後の社会の中で必要とされるものであると感じています。卒業生の皆さんには専門的な知識に加え、これらの特徴的な知識を糧に、新たなフィールドでご活躍いただきたく思います。今年で2期生までの卒業を迎え、同窓会も設立3周年を迎えました。コロナ禍も落ち着きつつあり、同窓会としても活動の幅を広げたく考えております。学部で学んだデザイン思考のスキルを通じて同窓会を盛り上げていきましょう。



第2期生を輩出して

令和4年度会長代行 / 令和4年度学部長 渡邊 了

2023年5月に新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行し、マスク着用は個人の判断に委ねられることになりました。5類移行後も、しばらくはマスクを外すことに躊躇が見られましたが、暑い夏を経て、マスクを外す方がかなり増えたと思います。授業をしていても、学内を歩いていると、「顔が見える」ことの大事さを感じています。マスク時代は、目しか見えなかったもので、どんな顔か分からないし、表情も読み取れませんでした。

第2期生について考えてみると、大学4年間のうち3年間はマスクが外せない時間でした。2019年4月、私たちは都市デザイン学部の第2期生を迎えました。前年に富山大学9番目の学部としてスタートし、1年間いろいろと経験は積みましましたので、私たちにも余裕がありました。立山青少年自然の家での宿泊研修をはじめ、順調にスタートできたと思っています。しかし、翌年になると世の中が騒然としてきました。新型コロナウイルスです。2019年度の授業は従来通り終えることができましたが、2020年度の入学式は中止となり、前期はオンライン授業になりました。はじめは「けっこうオンラインでもできるのだな」と思っていたのですが、やはり身振り手振りが使えないことや学生の反応が見えないことに難しさを感じることも多かったと思います。秋になると新型コロナもだいぶ落ち着いてきて、ほとんどの授業は対面で行われるようになりました。しかし、2023年5月までマスクは外せませんでした。

マスク時代は、もちろんそうするより他なかったのですが、やはり「本当はどういう顔なのか分からない」という異常な状態だったと思います。飲食をともにもすることも難しい時期でしたから、「マスク着用」の顔しか知らない場合が多かったのではないかと思います。(もちろん、親しければFace Timeなどを使っていたと思いますが。)なかなか友人関係を築くのが難しかったかもしれませんが、せっきく一緒にコロナ時代を富山で過ごした仲間です。これからも築いた関係を大事にしてほしいですし、ぜひマスクを外して楽しんでほしいと思っています。



事業一覧

- 4月(入学式、説明会、新入生対応)、幹事会*
- 5月(役員会、総会対応)、幹事会*
- 6月～7月(総会)、幹事会*
- 7月～8月(会誌立案、オープンキャンパス対応、企業説明会立案)、幹事会*
- 9月～12月(会誌手配、企業説明会・講演会の実施、卒業祝賀会支援案、新入生対応)、幹事会*
- 12月(役員会)、幹事会*
- 1月(会誌印刷(必要分)、卒業祝賀会支援案、新入生対応・入学式対応)、幹事会*
- 2月 幹事会*
- 3月(卒業祝賀会支援、決算・予算)

※幹事会は随時

在校生支援事業

学生生活支援
就職ガイダンス
会社説明会

卒業生支援事業

同窓会賞 授与
記念品 贈呈
祝賀会支援

その他

令和4年度 富山大学ホームカミングデーに参加
2022年10月29日(土)開催

富山大学同窓連合会に加入

令和3年度決算報告

令和3年度 都市デザイン学部同窓会一般会計決算報告

2021年4月1日～2022年3月31日

収入の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
繰越金	6,412,319	6,412,319	0	
R3 在校生会費	1,091,318	1,224,215	△ 132,897	ゆうちょ銀行 26人 774,875円 北陸銀行 15人 449,340円
R4 入学生会費	0	1,851,346	△ 1,851,346	ゆうちょ銀行 33人 968,403円 北陸銀行 31人 882,943円
準会員等会費	0	24,645	△ 24,645	ゆうちょ銀行 2人 14,645円 北陸銀行 1人 10,000円
利息収入	5	36	△ 31	ゆうちょ銀行 23円 北陸銀行 13円
その他の収入	50,000	0	50,000	
合計	7,553,642	9,512,561	△ 1,958,919	

差引額(予算-決算)

支出の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
会議費	50,000	0	50,000	在学生支援, 事務経費
通信費	500,000	144,580	355,420	ホームページ作成費 144,460円(アプライド(株))含む
事業費	1,000,000	507,446	492,554	卒業記念品(140個)、優秀学生表彰(3万円)同窓会誌印刷 350部
事務費	100,000	17,797	82,203	消耗品費(USBメモリ)
各部事業への協力金	140,000	58,080	81,920	富山大学同窓会連合会協力費
人件費	518,400	541,650	△ 23,250	週2回*6時間*900円*48週
その他の支出	0	180,000	△ 180,000	会費二重支払いの返金(ゆうちょ60,000円、北銀120,000円)
各種手数料	0	42,460	△ 42,460	北陸銀行手数料 42,460円
次年度繰越金	5,245,242	8,020,548	△ 2,775,306	
合計	7,553,642	9,512,561	△ 1,958,919	

差引額(予算-決算)

次年度繰越金計算方法

次年度繰越金	8,020,548	※繰越金内訳	
※収入決算(円) - 支出小計(円) = 円(次年度)繰越金		ゆうちょ銀行	1,497,910
		ゆうちょ銀行振替口座	3,812,142
		北陸銀行	2,709,496
		富山第一銀行	1,000
			<u>8,020,548</u>

令和3年度監査報告

2021年度富山大学都市デザイン学部同窓会会計について、帳票類、収支金額、残高内容を監査しましたところ、適正妥当な会計処理がなされていると認めました。

監査年月日 令和4年5月10日

会計監事 金山洋一
会計幹事 本田 豊

卒業証書授与式・祝賀会



卒業生からの一言・思い出

大学生活での思い出

地球システム科学科 (令和4年度卒業) 日置真太朗

地球システム科学科での4年間は、気象学をはじめ地球科学全体への興味が増し、学んだ知識が日常生活に密接に関わるほどに影響を与えた充実した期間でした。最も大きな影響としては、天気図を毎日のように眺め降水や風などの大気現象について考える時間が増えたことだと実感しています。この学科には同じく天気図を眺める人が一定数いるので、仲間内であれやこれやと意見を交わし、情報や知識の共有が頻繁に行われていることが強みであり、楽しい時間でもありました。その影響を大きく受け、3年次に気象予報士試験に合格することができました。他にも、防災への意識が強まったことなどから、石を意識して見ることや、露頭を見ると気分が上がったりするような地球科学を学習した後遺症が残されたことも、大学生活の良い思い出となると信じています。

僕は、春から大学院へ進学し研究対象の熱帯地域に留まらず、日本や他の地域の気象にも精通できるよう、今後も楽しみながら努めたいです。



地球システム科学科での4年間とこれから

地球システム科学科 (令和5年度卒業) 岡田 翔矢

富山大学に入学してから4年間の大学生活で様々な成長ができたと感じています。入学して1年目はコロナウィルスの影響もあり、前期の授業のほとんどがリモートだったので、想像していた大学生活とはかけ離れていました。そんな中、1年生前期の実習で立山に行けたことが学科の皆さんと仲良くなるきっかけとなりました。1年生の後期からは対面授業やサークル活動なども始まりこれまでになかったことを体験しました。特に学部共通の、他学科の学生と自分の持っている知識を共有しつつ課題解決を目指す授業は、人によって異なる視点からのものの見方や捉え方、その伝え方を学ぶことができました。

私は春から大学院に進学します。大学4年間での経験や学びを活かして更なる成長に繋げていきたいと思っています。



これまでとこれから

地球システム科学科 (令和3年度卒業) 水戸 優香

富山大学を卒業し、2年が経ちました。私は今、土木工事を担う建設会社に就職し、施工管理の仕事をしています。この仕事は、土木工事の施工において安全・品質・工程・原価を管理し、無事に工事を竣工させる仕事です。

もともと建設業に携わろうと考えていたのではありません。大学で学んだ災害学や地質学の知識を少しでも活かして社会の役に立てたらと思い、災害復旧やインフラ整備を担う建設会社に就職することを決めました。入社後は、千葉県我孫子市での雨水幹線工事、東海原子力発電所再稼働のための地下構造物設置工事等に携わりました。見たこともない大きな重機、聞いたことのない専門用語、飛び込んだ先には、自分の全く知らない世界が広がっていて、戸惑うことばかりでした。しかし、大きなプロジェクトの一員となり働くとは楽しく、工事を無事に完工しようという同じ目標に向かって働くことは喜びにつながると感じました。働いていく中で、少しずつみえてきたものがあります。それは、学生時代にはわからなかった、「自分がどのように、何のために働きたいか」です。大きな決断ではありますが、自分の気持ちに素直に、新しい道へ進む準備をしています。大学での経験や出会った友人たちが、今の自分の支えになっているように、これから自分が選択した道で得る経験や出会う人々が、自分の基礎になっているのだと思います。これからも、自分の気持ちに素直に、少しずつでも、前に進んでいきたいと思っています。



周りの環境に感謝

都市・交通デザイン学科 (令和4年度卒業) 中谷 茉樹

入学してから自分自身大きく変化した4年間でした。それは色々なきっかけや出会いがあったからです。

1つ目は水泳部に入った事です。私は水泳を高校3年まで12年間やっていました。正直現役で進学していたら水泳部に入る予定はありませんでした。しかし、浪人し1年間離れた結果、改めて自分は泳ぐことが好きだと気付き入部しました。全員本当に仲が良く、切磋琢磨しながら思い出もたくさん作って、とても素敵な空間でした。

2つ目は友達との出会いです。私の周りには個性的な人しかいません。特に山に連れていってくれたことは自分自身の世界を広げる最初のきっかけだったような気がします。それ以降、自分の行動範囲は大きく広がり、日本全国旅するようにもなり新しい世界をたくさん見ることが出来ました。

最後に、1番大きなきっかけはこの学科に入学したことです。私たちは学科の2期生として入ってきたので先輩は1学年上の方しかいませんでした。その中でも、「大学教授って接しにくいのかな。」という予想を覆す距離感で優しく接してくださる先生方がいたおかげで楽しく過ごすことができ、成長することが出来ました。

入学当初には予想も付かないようなとても濃い時間を過ごしてきました。それはもちろん自分自身の力だけでは出来ません。両親や先生方、友達含め関わってくださったすべての方々の支えがあったからです。充実した4年間をありがとうございました。卒業後は大学院に進学します。今後ともお力添えのほどよろしくお願い致します。



材料デザイン工学科での4年間

材料デザイン工学科 (令和4年度卒業) 高木 悠希

材料デザイン工学科での4年間は、様々な出会いがあり、そのなかで材料への知識や興味が増していったとても充実した期間でした。

入学当初は、新しい環境に心が躍っていましたが、材料デザイン工学科を選んだ理由も特になく、当時の私はこの学科について無知蒙昧だったため授業についていけるかや友達ができるかなどの不安も同時にありました。しかし、大学生活を送っていくにつれて私のことを理解してくれる頼れる友達に出会うことができました。友達と分からないところを教え合うことで授業にも困ることなくついていくことができました。そのほかにも、大学生活で私の新しい趣味である「ウェイトトレーニング」に出会うことができました。最初は友達と遊び半分でジムに行ったことがきっかけでしたが、扱う重量や身体の成長が目に見えて分かることで、夢中になっていきました。その後、コロナ禍で授業がオンラインとなりましたが、この趣味のおかげで運動不足やストレスに悩むことなく、規則正しい生活を送ることができました。

私は春から就職します。材料デザイン工学科で得た知識と経験を活かしてこれからの社会人生活をより良いものにしていきたいと思います。



材料デザイン工学科とマテリアル科学工学プログラムでの研究活動

大学院修士課程理工学専攻マテリアル科学工学プログラム 辻口 隼人
(令和3年度材料デザイン工学科卒業)

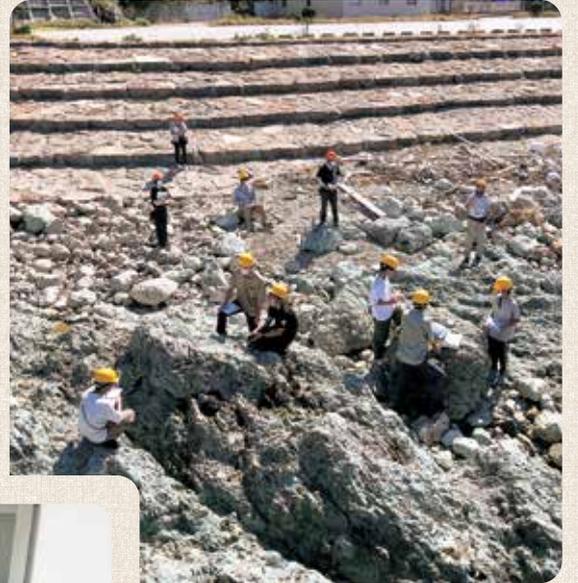
この度、同窓会誌に寄稿させていただく機会を得ました。誌面を借りて御礼申し上げます。私は、理工学専攻マテリアル科学工学プログラムの組織制御工学研究室に所属し、松田健二教授をはじめ、先生方の指導のもと研究を通じて、材料分野の専門的知識や研究能力を養いました。大学院での研究活動は、学部生の時よりも課題解決に向けて自ら考え実践することが多く、より専門的な知識や柔軟な思考力などが求められました。国内の学会発表にも多く参加しましたが、特に2回の国際会議への参加は、様々な材料科学系分野の海外の研究者や技術者と対面での会話を通じて交流することができ、自分の研究分野の最先端の情報交換といった国際的な視野、思考に触れてたくさんの新たな発見や気づきを得る良い学びとなりました。研究面だけでなく、様々な専門知識、特に異なる文化や経歴を持った研究者、技術者と交流したことは、グローバルに活躍できる人材になりたいという決意を強くしました。

私は春から金属素材メーカーの技術者として働く予定です。これまでの研究活動を通じて学んできたこと、経験したことの知見を活かして技術者として、社会に貢献できるように努力したいと思います。



思い出から





都市デザイン学部

富山大学 都市デザイン学部同窓会 <http://www3.u-toyama.ac.jp/sdalumni/>
同窓会事務局 〒930-8555 富山県富山市五福 3190 工学部内
Tel: 076-445-6335 (内 6335), Fax: 076-445-6697
E-mail: sdalumni@sus.u-toyama.ac.jp

